

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

第2部：支援の原則と人々の反応

デイリー・ジーザス・ニュース #104

基本テキスト: MT 10.9-15 (並行テキスト: マルコ6章8-11節、ルカ9章3-5節)

9 「わたしはあなたに命じる。^M旅の必需品は杖だけ。パンも^{MT}金や銀や銅を帯に入れて携えて行きなさい。10旅のための袋や替えのシャツや履物や替えの杖は持たないで下さい。働く者は支えられる価値があるからです。」

11 「どの町や村に入っても、ふさわしい人を捜し、その家を出て行くまでそこに留まりなさい。12家に入ったら、あいさつをなさい。13 もしその家がふさわしいものであれば、あなたがたの平安がそこにとどまるようにしなさい。そうでなければ、あなたがたの平安があなたに戻って来るようにしなさい。」

14もし、あなたがたを歓迎せず、あなたがたの言葉に耳を傾けないなら、その家や町を去るとき、足のちりを払い落としなさい。15よく聞きなさい。裁きの日には、ソドムとゴモラの方が、その町よりも耐えやすいであろう。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています**。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	おそらくガリラヤのカペナウム
タイムライン	回ツアー直前)
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	H. イエスはガリラヤへの第三巡回の前に十二使徒を整える
タイトル	第2部：支援の原則と人々の反応

コメント：

今日の朗読の中で、イエスはさらに二つの宣教の根本原則を説かれました。それは彼らと、イエスの最後の再臨まですべての信者に適用され続けました。私たちはこれらの原則に注意深く耳を傾ける必要があります。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

第一の原則は10節にあります。「働く者は支えを受けるに値する。」十二使徒は既にイエスの専従者でした。彼らは共通の「財布」、つまり基金から共同生活を送っていました。その基金はイスカリオテのユダが管理していました(ヨハネ12:6)。数人の女性弟子がこの基金に惜しみなく寄付し、食事の用意もしました。20人から30人ほどの、常に移動している集団にとって、これは決して容易なことではありませんでした(ルカ8:1-3)。

弟子たちは、イエスと、彼らが共有する共通の財布以外に、支えとなるものを持っていませんでした。彼らは「信仰によって生きる」ことに慣れていました。イエスは「山上の教え」の中で、毎日祈り、「日ごとの糧」を父なる神に信頼するようにと教えていました。イエスに従い始めて以来、彼らの必要はすべて、物質的な支えも含め、イエスによって満たされてきました。彼らの祈りは聞き届けられていたのです。

さて、イエスは使徒たちに、共同の財布から引き離されている間も、神に頼り続けるようにと指示されました。彼らに必要なものを与えてくださったのは神であり、共同の財布の中身ではありませんでした。ですから、使徒たちは特別な資源に頼るべきではありませんでした。イエスは、使徒たちが御名によって奉仕することに集中する限り、父なる神が日々の必要を満たし続けてくださることを信じてほしいと願っていました。主は、フルタイムで福音を伝える働き手たちが福音宣教に専念できるよう、支援を受けるに値すると固く信じておられました。

使徒たちへのこの指示は、福音を宣べ伝える者を神は全時間支えてくださるという不変の原則を示しており、それゆえ、神の民も彼らを支えに値すべきだとみなすべきです。しかし、イエスはあらゆる状況において、その支えをどのように扱うべきかを具体的に示されたわけではありません。他の時代や場所では、イエスは使徒、伝道者、教会員、そして教会に対し、福音を宣べ伝える者を様々な方法で支えるよう指示されました。方法は様々でしたが、働き手は支えに値するという原則は変わりませんでした。

特にガリラヤへの第三巡回では、使徒たちは宣教の対象をガリラヤのユダヤ人に限定するよう命じられました。これは、旅人たちが利用できる文化的な支援体制が備わっていたことを意味します。ユダヤ人は律法において、町の門に来た外国人や同胞のユダヤ人を家に迎え入れ、食事を与えるよう神から命じられていました。イエスは使徒たちに、この慣習を通して神の恵みに頼り、宣教する人々の歓待と支えを受け入れるよう告げました。

この箇所ではイエスが確立した宣教の第二の基本原則は、福音を聞く人々がそれに対する反応に責任を持つということです。イエスはこれがガリラヤ最後の巡回となることを知っていました。町や村のほとんどの人々にとって、これはイエスのメッセージを聞く三度目、そして最後の機会となるでしょう。もしある町が使徒の証言を拒絶したなら、イエスは彼らへの警告として、町を去る際に足についた町の塵を払い落とすように指示しました。町の人々が福音を拒絶したように、イエスの使者たちは人々に、もし悔い改めなければ、いつか王に拒絶されるだろうと警告していたのです。

イエスご自身がその町に到着した時、それは彼らにとってイエスを受け入れる最後の機会となりました。彼らはそれに応じる責任を負っていました。神の忍耐は、人々に神の慈悲と恵みに応じる機会を十分に与えるためにあります。しかし、すべての命はイエスの御座の前で裁きを受けて終わります。悔い改めて福音を信じるか、それとも拒むかという個人的な決断は、神に対して各自が責任を負うのです。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

応用：

フルタイムで福音を宣べ伝える人々への経済的支援と、メッセージを聞く人々の責任の重大さは、密接に係る二つの問題です。

働き手を支援し、派遣しなければ、人々はメッセージを聞く機会を失ってしまいます。すべての人が、真に反応する機会が与えられるまで、メッセージを聞く必要があります。そのためには、メッセージを伝える福音の働き手を支援する必要があります。

同時に、福音を拒むすべての人に、福音を聞く最後のチャンスが与えられています。これは深刻なことです。イエスのメッセージを拒むとき、恵みを受ける機会は失われつつあることを、人々は警告される必要があります。

フルタイムで福音を宣べ伝える人々、特に宣教師たちを支援することを、あなたはどの程度優先していますか。

あなた自身がイエスの証人として福音のメッセージを伝えることに尽力されているでしょうか？これらの分野で、どのようにもっと貢献できるでしょうか？